

研究開発マネジメント人材に 求められること

2023年12月22日



科学技術振興機構

Japan Science and Technology Agency

研究スタイルの変化

従来の日本型の研究開発モデル

基礎研究から実用化まで、長ければ数十年をかけてリニアに進展

(例) : 研究代表者(PI)主導の研究、クローズ型中心の産学連携



近年における「新しい枠組み」の必要性

“基礎研究の進展／成果の社会展開”が極めて近接

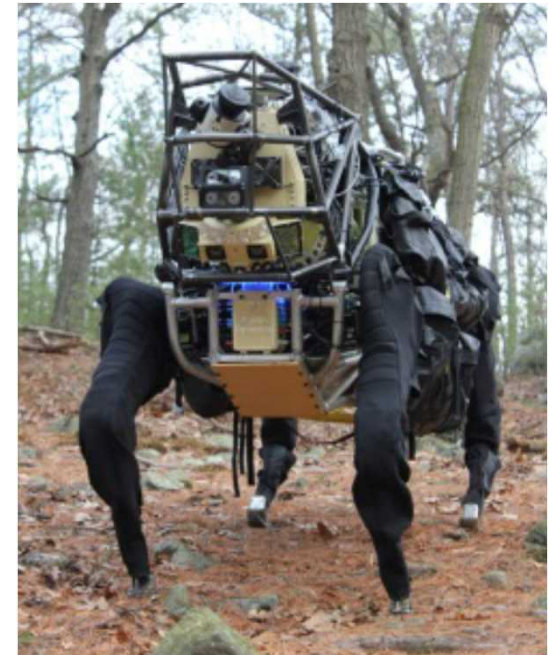
(例) : 課題解決型・バックキャスト型の研究開発、産学共創によるオープンイノベーション

→研究を常にイノベーションの視点から見つめる
「パートナー」の必要性

「イノベーション政策」と「研究現場」を繋ぐプロデューサー
〔 “研究開発マネージャー” 〕

イノベーションを次々起こす米国での成功例

- インターネット
- GPS
- ロボット掃除機 「ルンバ」
- 四脚荷物運搬ロボット



米国では【プログラムマネージャー (PM)】の存在が大

波及効果の大きい研究課題を見出し、研究開発プロジェクトを企画立案。
成果の創出に向け関係者の調整やプログラム推進や有望な成果の管理を
主導的に実施するプロデューサー的人材。

今、日本がなすべきこと

ImPACT, MOONSHOTなどの事業は、米国のPM制度を参考に推進。
しかし、日本ではまだまだ先端科学技術をプロデュースする人材が不足。

JSTが

「イノベーション政策（イノベーションを目指す戦略）」と
「研究現場」を繋ぐプロデューサー的人材の
育成・輩出を始動

研究開発成果の最大化に寄与

URAの配置状況

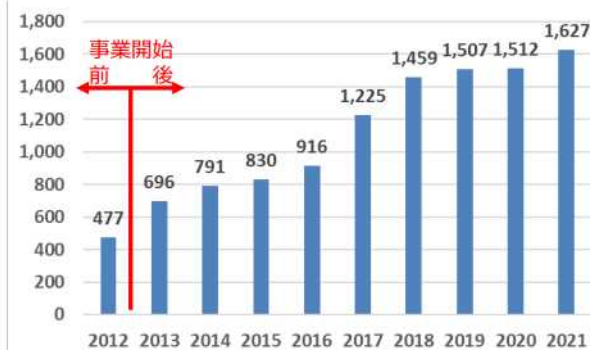
採択機関におけるURA配置状況推移



採択機関における
自主財源によるURA雇用人数
13年 222人 → 23年 722人(予定)

全国のURAの約4割を
本事業採択機関が占めている
(日本全体で1,627人に対して本事業669人)

国公立大学等におけるURA配置状況



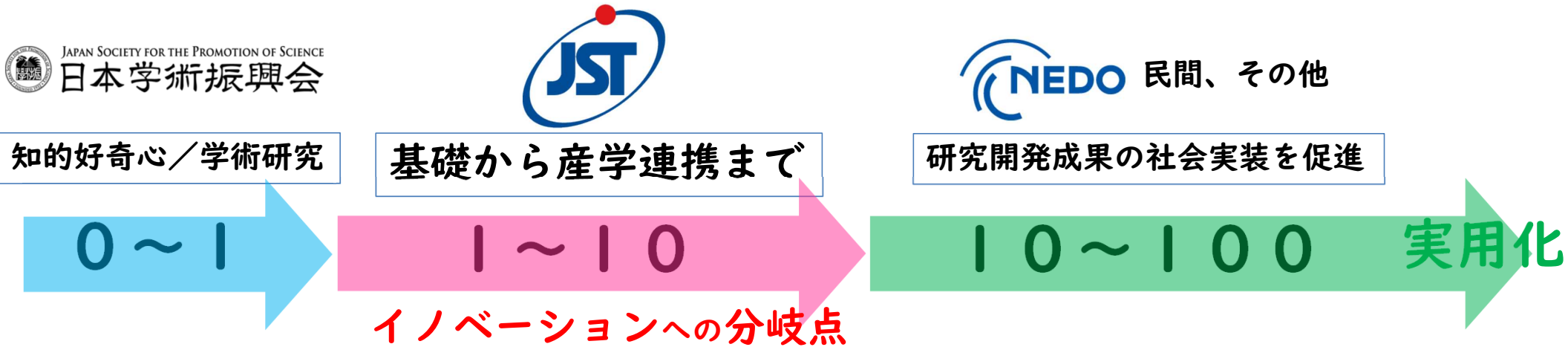
「大学等における産学連携等実施状況について」を基に表を作成

自主財源によるURA雇用人数を3倍超に拡大。

我が国の研究大学におけるURAシステムの定着・拡大に貢献。

なぜJSTがやるのか

JSTの目的 研究成果の優れた芽を社会に役立とうよう伸ばす



(今回配属が想定されるプログラムの例)



“研究開発マネージャー” とは

科学技術の

「イノベーション政策」と「研究現場」を繋ぐ

(イノベーションを目指す戦略)

高度な専門人材

(プロデューサー的人材)

■優れた研究シーズや研究者の「目利き」

■早期からイノベーションの視点を携えて研究者と協働

- ・分野・組織を超えた研究構想立案
- ・独創的な研究活動全体のマネジメント
- ・成果活用の戦略的实施

日本の科学技術を牽引するプロデューサー “研究開発マネージャー”に向けた任期制職員第二期募集

本職種の魅力

- **ファンディング関連部門（最先端研究の最前線支援）に勤務**します。
 - ・ 第一線の研究者と力を合わせて取り組んでいただきます
 - ・ 世の中を変えるイノベーション創出に貢献できる仕事です
- **定年制職員への道**があります。

当初は任期制職員（研究開発マネジメント専門員）としての採用。
採用2年度目に登用試験あり。
登用後は・・・

 - ・ 複数の部門で経験を積むことができます。
 - ・ 外部での活躍の幅が広がります。

（将来、大学や研究機関への派遣・人事交流等も検討中）
- **本職種のための独自の処遇**を用意します

背景・課題

- 「第6期科学技術・イノベーション基本計画」や「経済財政運営と改革の基本方針2023」などにおいて、研究を支えるマネジメント・支援人材の育成や活躍促進が求められているところ
- 我が国全体の研究力強化に向けて、科学技術のイノベーション政策と研究現場をつなぐ高度な専門人材として、研究開発マネジメント人材(URA、PM等)の更なる量的・質的充実を図るとともに、持続可能なエコシステムを構築することが必要

事業概要

研究開発マネジメント人材 (科学技術のイノベーション政策と研究現場をつなぐ高度な専門人材)

リサーチ・アドミニストレーター(URA)

■リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材の育成

URA等のマネジメント人材が担う多様な業務に必要なとされる知識の体系的な専門研修受講の機会提供、研修内容の整理、改善等を実施

研修プログラムの例

基礎的なレベルから段階を設定し、**多岐にわたるURA業務**の知識を得るための必修カリキュラムとして、Fundamental・Coreのレベルにそれぞれ**15科目(10科目群)**を設定。

JSTにおける
一体的
運用・推進
による育成
強化
(※)

プログラスマネージャー(PM)

■プログラスマネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム

PMとして必要とされる能力・経験を身に付けた人材を2段階ステージで育成し、一流のメンターによるサポートと修了者のネットワーキングによりPMとしての活躍推進を図る

プログラムの概要

知財戦略や広報戦略、組織マネジメントなどの知識を学んだ上での**研究開発プログラムの提案書作成**、作成した提案書の**フェーズビリティスタディによる実践経験**の2段階ステージによる育成を実施。

※新規プロジェクトの企画・運営など、研究開発マネジメント人材の育成に資する共通の研修コア・カリキュラムの実施が可能
※JSTが研究開発マネジメント人材育成のハブ機能を果たし、育成されたURAやPMが組織を越えて交流・活躍することを促進